

フィリピン産カカオで

チョコ作り



①フェアトレードのチョコレートを楽しむ参加者ら ②フィリピンのカカオ農家の現状を話す青山友香さん③④⑤いずれも浜松市中区の静岡文化芸術大で

文化芸大生フェアトレード活動

静岡文化芸術大(浜松市中区)の学生有志が、フィリピン産カカオを使ったチョコレート作りに取り組んでいる。途上国の生産品を適正価格で取引する「フェアトレード」でカカオを輸入し、生活が厳しい現地の農家を支援する。フィリピンのカカオ農園を二月に視察した学生が同大で二十一日、報告会を開き「貧困下にある農家たちを救いたい」と思いを語った。

(坂本圭佑)

同大は二〇一八年二月、一般社団法人「日本フェアトレード・フォーラム」(東京)から、国内初の「フェアトレード大学」に認定され、同十一月に学生

主体の「はままつチョコプロジェクト」を発足。輸入から販売までを学生で手掛けたチョコレート販売する。プロジェクトをサポートする同大文化政策学部の下沢嶽教授によると、フィリピンは近年、国を挙げてカカオ生産に取り組み。アフリカを中心としたカカオの主要生産国では、生産者や労働者がチョコレートメーカーから搾取されてきた経緯がありフィリピンでもその恐れがあることから、同アジアの国としてフェアトレードの対象に選んだ。

報告会では、学生らが訪れたカガヤン・デ・オロ市の農園の現状を紹介。経営者と農家の暮らしに大きな差があり、農家は低賃金で貧しい生活を強いられると報告した。フェアトレードで作られた市販のチョコレートを味わった。

参加した聖隷クリストファー高校二年の杉浦雅さん(右)は「過剰な労働や低賃金の実態を知って、ひどいと思った。フェアトレードがもっと世界に広まってほしい」と話した。

プロジェクトでは今後、浜松市内の製菓会社と協力し、浜松ゆかりの食材を取り入れ、学生がデザインしたパッケージで二〇年十二月〜二一年二月にチョコレート販売する。インターネット上のクラウドファンディングサイト「キヤンブファイヤー」で八月十二日まで、活動資金を集める。

プロジェクト代表のデザイン学部二年青山友香さん(右)は「貧しい生活を送るカカオ農家の現状を知ってほしい。将来はカカオ農家のよりよい生活につながればうれしい」と意気込んだ。

「貧しい農家支援したい」